

県政 WEB アンケート

結果報告書

もしものときの医療やケアに関するアンケート調査
～在宅医療と人生の最終段階における意思決定～

【調査目的】

高齢化の進行により、医療や介護の両方を必要とする方の増加が見込まれる中、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けられるよう、県民の人生の最終段階における医療やケアに関する意識やニーズを把握することにより、今後の在宅における医療・介護連携推進の施策検討等の基礎資料とするため実施したものです。

【調査担当課】 福祉保健部 長寿社会課

【調査期間】 令和8年6月25日から令和8年7月10日（16日間）

【調査対象】 ながさき WEB 県政アンケート全モニター（428名）

【回答状況】 回答者 290名（回答率 67.8%）

回答は、項目ごとに小数点以下第2位を四捨五入しているため、項目ごとの合計が100%にならない場合があります。

回答者の年齢構成

年齢	人数	割合
10代	24	8.3%
20代	36	12.4%
30代	53	18.3%
40代	77	26.6%
50代	48	16.6%
60代	34	11.7%
70代	17	5.9%
80代以上	1	0.3%

【調査結果】

Q1 あなたは家の近くに安心してかけられる医療機関（かかりつけ医）がありますか。

回答選択肢	回答数	割合
ある	189	65.2%
ない	80	27.6%
わからない	21	7.2%

Q2 あなたは「訪問診療」について知っていますか。

回答選択肢	回答数	割合
知っている	214	73.8%
聞いたことがあるが、内容は知らない	73	25.2%
知らない	3	1.0%

Q3 あなたは「訪問看護」について知っていますか。

回答選択肢	回答数	割合
知っている	217	74.8%
聞いたことがあるが、内容は知らない	69	23.8%
知らない	4	1.4%

Q4 仮に人生の最終段階にある場合、どのような医療やケアを希望しますか。

回答選択肢	回答数	割合
なるべく早く、今まで通っていた（または現在入院中の）医療機関に入院し、そのまま最期を迎えたい	40	13.8%
可能な限り自宅で医療やケアを受け、最後は医療機関に入院し最期を迎えたい	77	26.6%
自宅で医療やケアを受けながら、自宅で最期を迎えたい	87	30.0%
専門的医療機関（がんセンターなど）で積極的に最期まで治療を受けたい	15	5.2%
老人ホームなどに入所し、医療やケアを受けながら、最期を迎えたい	37	12.8%
わからない	21	7.2%
その他（自由記述）	13	4.5%

<その他の回答内容

- 家族に負担をかけない方法を選びたいが、最善の方法が分からない。
- 緩和ケアやホスピスで穏やかに最期を迎えたい。
- 延命治療は望まず、自然な最期を迎えたい。
- 安楽死を選択できる制度があればよいと思う。

Q5 あなたは最期まで自宅での療養ができると思いますか。

回答選択肢	回答数	割合
できると思う	42	14.5%
困難であると思う	211	72.8%
わからない	37	12.8%

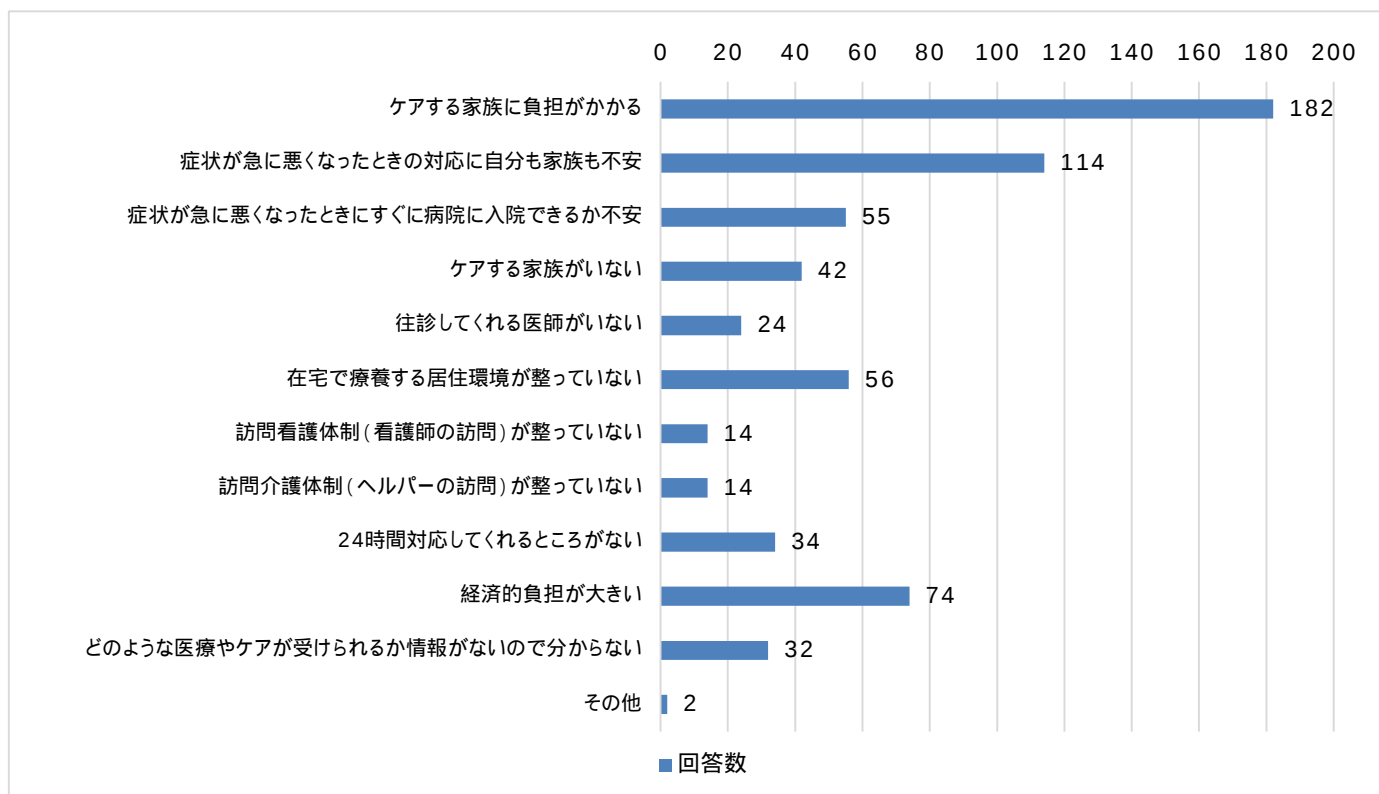
Q6 Q5 で困難であると思う理由を全て選んでください。(複数回答)

回答選択肢	回答数	割合
ケアする家族に負担がかかる	182	86.3%
症状が急に悪くなったときの対応に自分も家族も不安	114	54.0%
症状が急に悪くなったときにすぐに病院に入院できるか不安	55	26.1%
ケアする家族がいない	42	19.9%
往診してくれる医師がいない	24	11.4%
在宅で療養する居住環境が整っていない	56	26.5%
訪問看護体制(看護師の訪問)が整っていない	14	6.6%
訪問介護体制(ヘルパーの訪問)が整っていない	14	6.6%
24 時間対応してくれるところがない	34	16.1%
経済的負担が大きい	74	35.1%
どのような医療やケアが受けられるか情報がないので分からない	32	15.2%
その他	2	0.9%

<その他の回答内容

○気を使いたくない。

○病院が営利追及に偏りすぎて、患者の医療方針を尊重していない。



Q7 家族や身近な人が同じ状態にある場合、どのような医療やケアを薦めますか。

回答選択肢	回答数	割合
なるべく早く、医療機関に入院し、そのまま最期を迎えること	58	20.0%
可能な限り自宅で医療やケアを受け、最後は医療機関に入院し最期を迎えること	78	26.9%
自宅で医療とケアを受けながら、自宅で最期を迎えること	66	22.8%
専門的医療機関で積極的に最期まで治療を受けること	16	5.5%
老人ホームなどに入所し、医療やケアを受けながら、最期を迎えること	33	11.4%
わからない	16	5.5%
その他	23	7.9%

その他の意見内容

- 本人の意思や希望を尊重したい。
- 本人が元気なうちから希望を確認しておきたい。
- できるだけ自宅で過ごしながら、状況に応じて判断したい。

Q8 家族や身近な人が最期まで自宅での療養ができると思いますか。

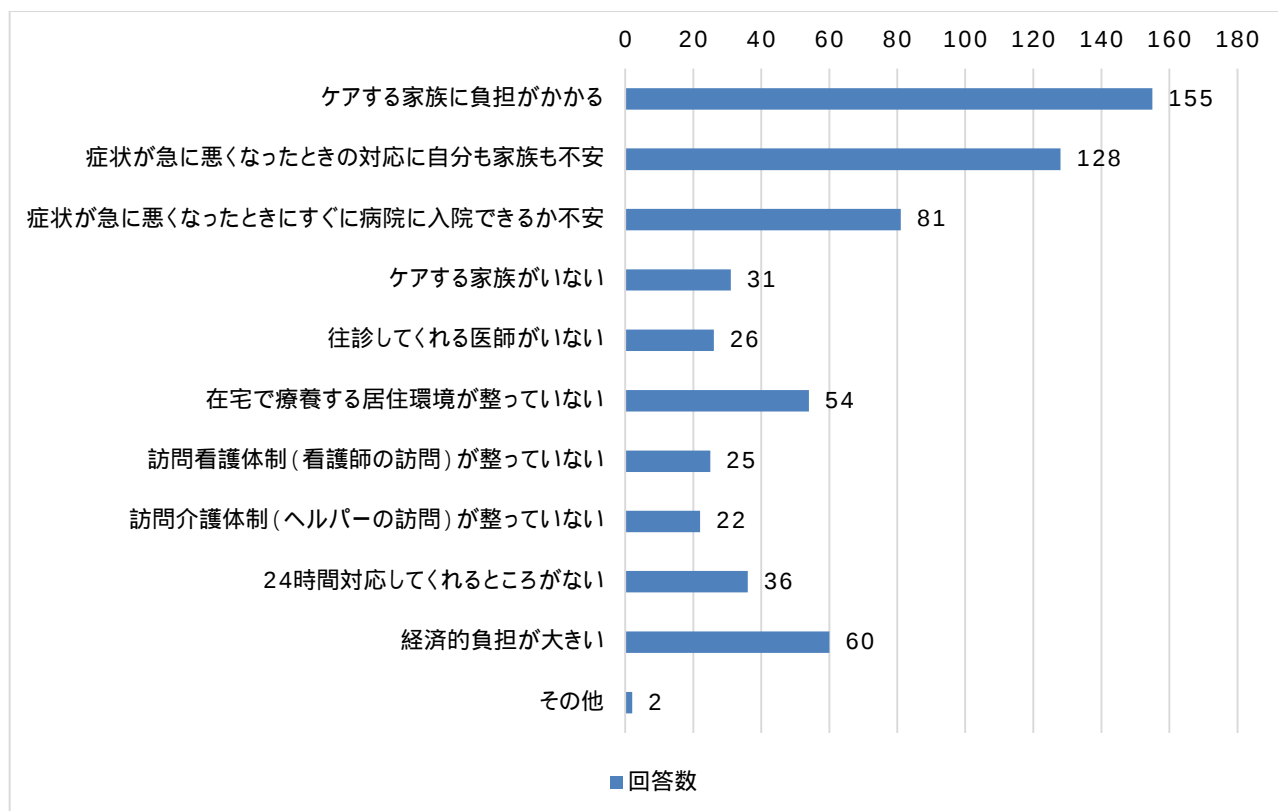
回答選択肢	回答数	割合
できると思う	45	15.5%
困難であると思う	200	69.0%
わからない	45	15.5%

Q9 Q8 で困難であると思う理由を全て選んでください。(複数回答)

回答選択肢	回答数	割合
ケアする家族に負担がかかる	155	77.5%
症状が急に悪くなったときの対応に自分も家族も不安	128	64.0%
症状が急に悪くなったときにすぐに病院に入院できるか不安	81	40.5%
ケアする家族がいない	31	15.5%
往診してくれる医師がいない	26	13.0%
在宅で療養する居住環境が整っていない	54	27.0%
訪問看護体制(看護師の訪問)が整っていない	25	12.5%
訪問介護体制(ヘルパーの訪問)が整っていない	22	11.0%
24時間対応してくれるところがない	36	18.0%
経済的負担が大きい	60	30.0%
その他	2	1.0%

その他の意見内容

- どういうケアが受けられるか知らない。
- 自分自身が高齢なので最後まで自宅で看護する自信がない。



Q10 あなたは「ACP」について知っていますか。

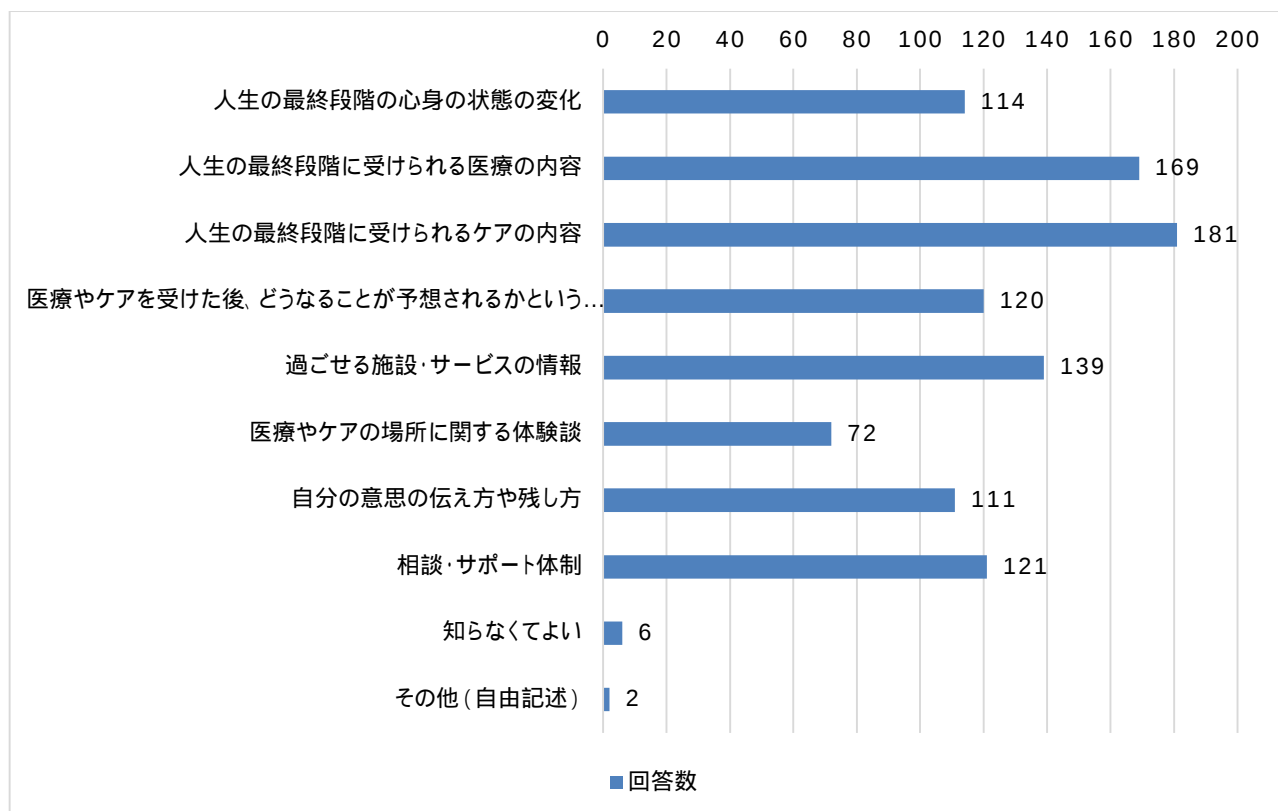
回答選択肢	回答数	割合
知っている	48	16.6%
聞いたことはあるが、内容は知らなかった	25	8.6%
知らない	217	74.8%

Q11 人生の最終段階の医療やケアを考えるために、どのような情報を得たいと思いますか。(複数回答)

回答選択肢	回答数	割合
人生の最終段階の心身の状態の変化	114	39.3%
人生の最終段階に受けられる医療の内容	169	58.3%
人生の最終段階に受けられるケアの内容	181	62.4%
医療やケアを受けた後、どうなることが予想されるかという情報	120	41.4%
過ごせる施設・サービスの情報	139	47.9%
医療やケアの場所に関する体験談	72	24.8%
自分の意思の伝え方や残し方	111	38.3%
相談・サポート体制	121	41.7%
知らなくてよい	6	2.1%
その他(自由記述)	2	0.7%

その他の意見内容

○人工呼吸器や胃ろうなど選択を迫られる場面をあらかじめ知りたい。



Q12 人生の最終段階の医療やケアについてご家族等と話し合ったことがありますか。

回答選択肢	回答数	割合
詳しく話し合っている	8	2.8%
一応、話し合ったことがある	97	33.4%
全く話し合ったことがない	185	63.8%

Q13 話し合ったことがない理由として、あてはまるものを1つ選んでください。

回答選択肢	回答数	割合
話し合いたくないから	6	3.2%
話し合う必要性を感じないから	5	2.7%
話し合うきっかけがなかったから	85	45.9%
まだ話し合うような年齢ではないから	69	37.3%
知識がなく、何を話し合っているかわからないから	16	8.6%
その他(自由記載)	4	2.2%

その他の意見内容

○日々の生活に追われ、考える余裕がない。

○話し合う相手がいない。

○まだ具体的に考える段階ではない。

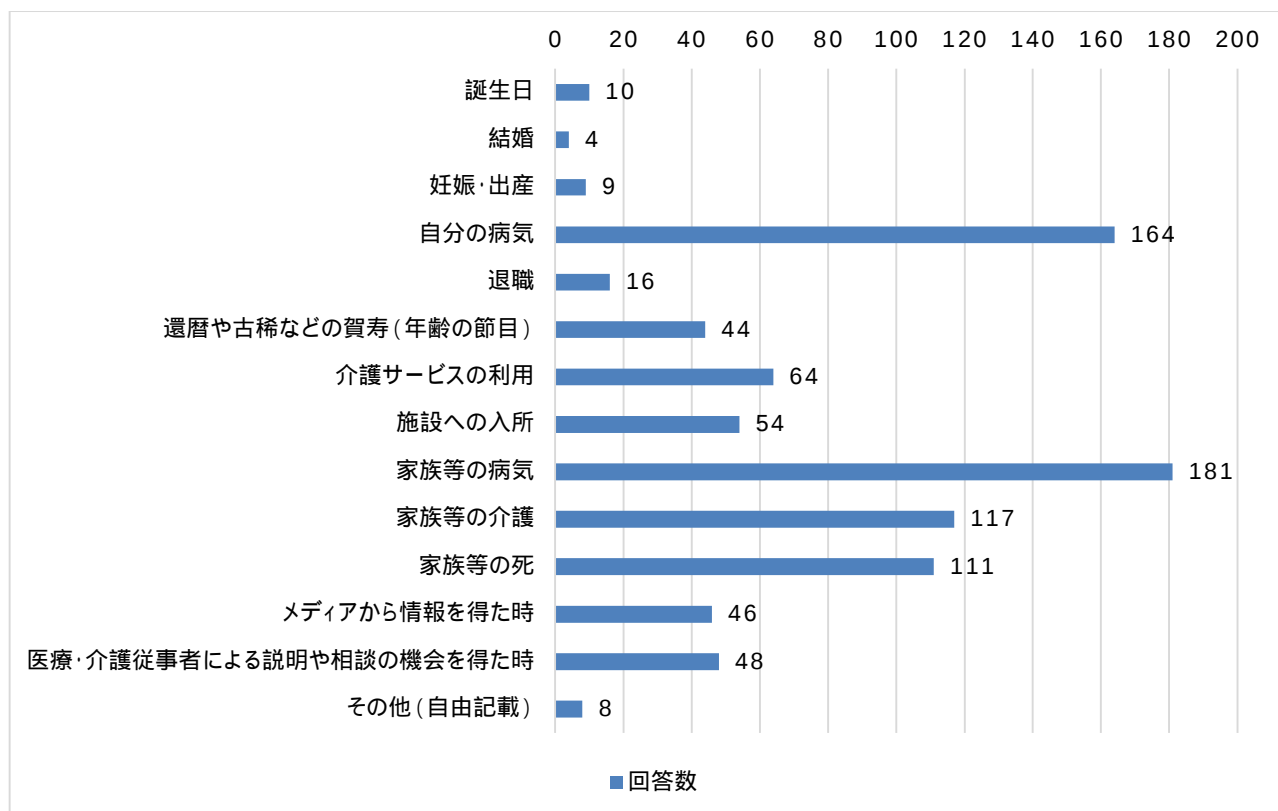
Q14 家族や医療・介護従事者と話し合うとしたら、きっかけはどんな出来事ですか。(複数回答)

回答選択肢	回答数	割合
誕生日	10	3.4%
結婚	4	1.4%
妊娠・出産	9	3.1%
自分の病気	164	56.6%
退職	16	5.5%
還暦や古稀などの賀寿(年齢の節目)	44	15.2%
介護サービスの利用	64	22.1%
施設への入所	54	18.6%
家族等の病気	181	62.4%
家族等の介護	117	40.3%
家族等の死	111	38.3%
メディアから情報を得た時	46	15.9%
医療・介護従事者による説明や相談の機会を得た時	48	16.6%
その他(自由記載)	8	2.8%

その他の意見内容

○まだ具体的に考える段階ではない。

○講習会や身近な人の病気・葬儀がきっかけになる。

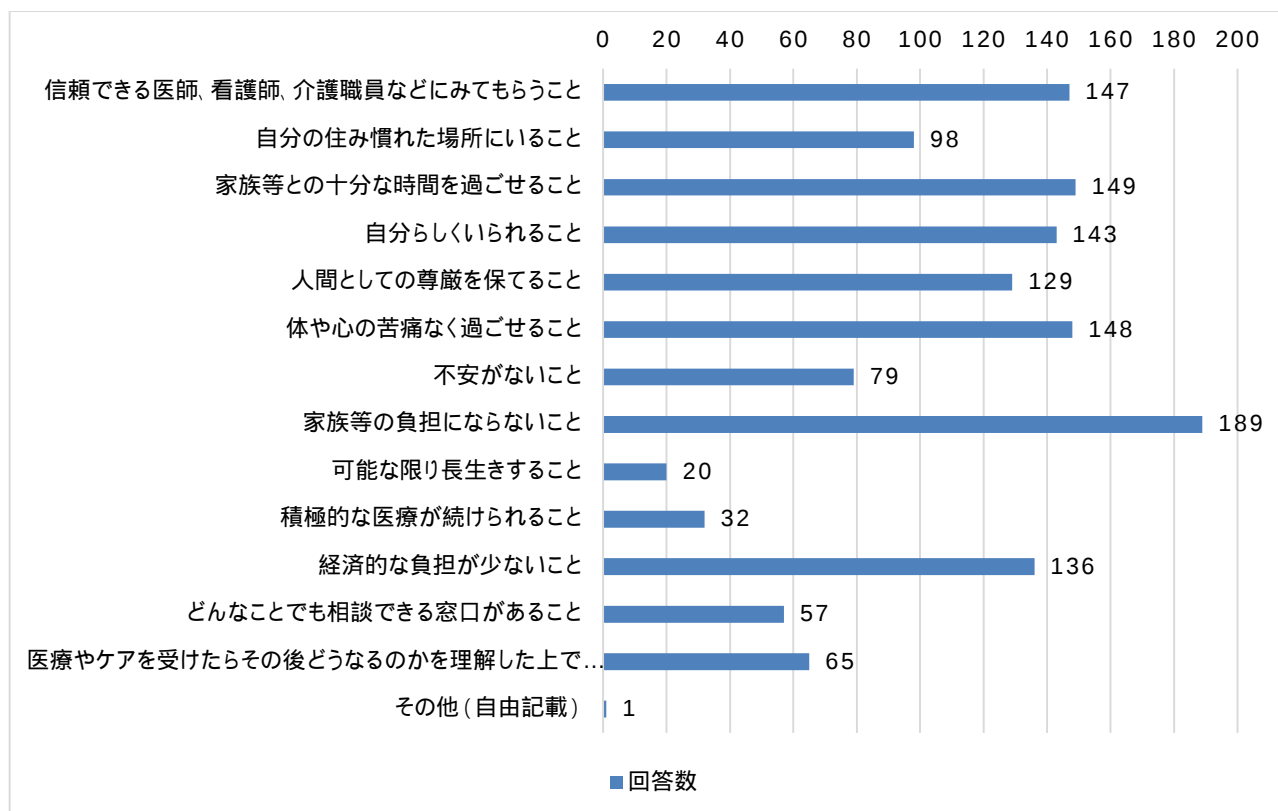


Q15 人生の最終段階の医療やケアについて考える際に、重要なことはなんですか。(複数回答)

回答選択肢	回答数	割合
信頼できる医師、看護師、介護職員などにみてもらうこと	147	50.7%
自分の住み慣れた場所にいること	98	33.8%
家族等との十分な時間を過ごせること	149	51.4%
自分らしくいられること	143	49.3%
人間としての尊厳を保てること	129	44.5%
体や心の苦痛なく過ごせること	148	51.0%
不安がないこと	79	27.2%
家族等の負担にならないこと	189	65.2%
可能な限り長生きすること	20	6.9%
積極的な医療が続けられること	32	11.0%
経済的な負担が少ないこと	136	46.9%
どんなことでも相談できる窓口があること	57	19.7%
医療やケアを受けたらその後どうなるのかを理解した上で判断すること	65	22.4%
その他(自由記載)	1	0.3%

その他の意見内容

○できるだけ人に迷惑をかけないこと。



Q16 お住まいの市町の「エンディングノート(人生ノート)」について知っていましたか。

回答選択肢	回答数	割合
持っていて、すでに自分の希望や思いなどを書いている	14	4.8%
持っているが、自分の希望や思いなどは書いていない	23	7.9%
知ってはいるが、持っていない	158	54.5%
知らなかった	95	32.8%

Q17 どのようにエンディングノートを活用していますか。(複数回答)

回答選択肢	回答数	割合
話し合う前に、自分が望む医療やケアについて考えを整理する参考にしている	13	35.1%
家族と話し合うときの参考にしている	10	27.0%
医療や介護従事者等と話し合うときの参考にしている	2	5.4%
話し合った内容を記録し残している	0	0.0%
家族と書いた内容を共有している	8	21.6%
医療・介護従事者等と書いた内容を共有している	0	0.0%
書いてはいるが、家族や医療・介護従事者等と共有はしていない	5	13.5%
活用していない	13	35.1%
その他(自由記述)	0	0.0%

Q18 エンディングノート(人生ノート)を活用していない理由を全て選んでください。(複数回答)

回答選択肢	回答数	割合
どのように活用したらよいかわからないから	76	30.0%
考えを整理するためのほしい情報が不足しているから	38	15.0%
望む医療やケアについて迷っていて決められないから	28	11.1%
家族や医療・介護従事者等と話し合う機会がないから	72	28.5%
内容について確認されたことがないから	46	18.2%
どうやって共有したらよいかわからないから	25	9.9%
ノートがなくても共有することができているから	22	8.7%
その他(自由記載)	48	19.0%

その他の意見内容

○まだ必要な年齢ではないと感じている。

○エンディングノートの存在を知らなかった。

○関心はあるが、きっかけや時間がなく取り組めていない。

Q19. ご意見・ご要望についての主な内容

*** 本人の意思を尊重できる体制づくりに関する意見 ***

- ・ 人生の最終段階においては、本人の意思や希望を尊重できる医療・介護体制が重要だと思う。
- ・ 自宅、病院、施設など、それぞれの希望に応じた選択ができる環境整備を望む。
- ・ ACP(人生会議)やエンディングノートについて、県民への周知を進めてほしい。

*** 家族への支援の充実 ***

- ・ 本人だけでなく、介護や看取りを担う家族への支援も充実してほしい。
- ・ 在宅療養を希望する場合でも、家族の身体的・精神的負担を軽減できる仕組みが必要だと思う。
- ・ 介護者向けの相談体制やサポート窓口の充実を望む。

*** 医療・介護サービスに関する情報提供に関する意見 ***

- ・ 利用できる医療・介護サービスや施設について、分かりやすい情報提供をお願いしたい。
- ・ 在宅療養や在宅看取りの流れについて知る機会があると安心できる。
- ・ 施設の種類や利用条件、費用などの情報発信を充実してほしい。

*** 医療・介護人材の確保 ***

- ・ 在宅医療や介護を支える医師、看護師、介護職員の人材確保が重要だと感じる。
- ・ 将来も安心してサービスを受けられるよう、担い手の確保や処遇改善を進めてほしい。

*** 経済的負担への不安 ***

- ・ 人生の最終段階における医療や介護に関して、経済的負担への不安がある。
- ・ 費用負担を軽減する制度や支援策の充実を期待する。

*** 地域における医療体制への要望 ***

- ・ 住み慣れた地域で安心して医療や介護を受けられる体制整備を望む。
- ・ 過疎地域や離島地域においても必要な医療や介護サービスが確保されることを期待する。

*** その他 ***

- ・ このアンケートをきっかけに、自身や家族の人生の最終段階について考える必要性を感じた。
- ・ 元氣なうちから家族と話し合うことの大切さを改めて認識した。